

主 文

本件申立を棄却する。

理 由

本件申立の理由は、別紙判決解釈書下附願と題する書面記載のとおりである（同書面に刑法五〇一条、刑訟法二九五条とあるはそれぞれ刑訴五〇一条、刑訴規則二九五条の誤記と認める）。

刑訴五〇一条にいわゆる「裁判の解釈について疑があるとき」とは、判決主文の趣旨が明瞭でなく、その解釈について疑義がある場合をいうものであることは、当裁判所の判例（昭和二五年（す）第二〇一号、同年一二月二二日第二小法廷決定参照）の示すところである。しかるに本件申立の理由は、単に解釈書を下附されたいというに止まり、右の場合に当たらないことが明らかであつて、本件申立は不適法であるから棄却すべきものである。

よつて裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二八年九月三〇日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎